



OG/OB と学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を季節の便りとしてお届けしていきます。

INDEX



1. 『筑波山西麓をドライブ』 / 中村瑞歩
椎尾山にみられる文化と自然
2. 『団子さし』 / 山田優芽
お正月を取り戻す。
3. 『コロナ入学世代・3年生の就活の「今」を追う』 / 北川瑠菜
頼れる人を見つけることが大切に
4. 『筑波落研の会長、変わります。』 / 天野隼太
代替わり寄席開催！
5. 『独断と偏見で選ぶ中央図書館の好きな場所ランキング』 / 後藤佳怜
5年間お世話になった学舎に愛を込めて♡
6. 『関鉄バスと筑波大生』 / 加藤総一郎
「宅通」学生の叙景（2）
7. 『6年間を振り返る』 / 磯良春佳
最後に行きたいつくばのお店



1. 『筑波山西麓をドライブ』

椎尾山にみられる文化と自然



皆様は「椎尾山」をご存じですか。椎尾山は筑波山の西に位置する標高 256mの小さな山です。筑波大学付近から、筑波山方面を見たときに筑波山の双峰のほかにわずかに飛び出ている部分といえわかりやすいでしょうか。恥ずかしながら私はつくばに 6 年間住んできて、卒業を控えた 2 月にして初めて知りました。今回は、身近にあるけど目立たない、そんな椎尾山をドライブして見たいと思います。

筑波大学から学園東大通りを車で 30 分ほどひたすら北上し、桜川市真壁に入るところに椎尾山がはっきりと見えてきます。大通りから脇道に逸れて 5 分ほど運転していると、大きな“湖”が眼前に現れます（写真 1）。ここは「つくし湖」と呼ばれる場所です。「つくし湖」の正式な名称は南椎尾調整池であり、茨城県の西南 17 市町に農業用水や水道用水、工業用水といった水を供給するための調整池です。通常、調整池は集中豪雨などにより増水した水を貯めることによって水害を防止する機能を持ちますが、この「つくし湖」がたたえる水はそれだけではありません。実際、この写真を撮った 2023 年 2 月 2 日の直近では、写真のようにこんなにも水が溜まるような豪雨は発生していません。それでは、この水はどこからきたと思いますか？



写真 1 つくし湖

正解は霞ヶ浦です。つくし湖付近に立っていた案内板によると、この付近は年間降水量が 1200 mm と少なく、かつ降雨分布が不均一なため、しばしば用水不足になり地下水に依存して農作物の生産などを行っていたそうです。これに対して、霞ヶ浦の豊かな水を霞ヶ浦揚水機場からポンプを使って汲み上げて、筑波山を掘り抜いて作ったトンネルを通し、霞ヶ浦の反対側のつくし湖に一度貯め、さらにパイプを通して鬼怒川を渡し、茨城県の南西部約 19300ha を潤す霞ヶ浦揚水農業水利事業が 1980 年に着工しました。そして、1992 年に完成、このつくし湖もできたそうです。そう言われてみると確かに写真 2 には「筑波トンネル」と書かれた施設があるのがわかります。

茨城県は東京など首都圏に野菜を供給する全国で2番目の農業県ですが、その一端はこうした筑波山の麓に人知れずある湖（池）が担っていると考えると興味深いです。



写真2 筑波トンネル

そして、つくし湖の前の道をひたすら登ります。車幅ギリギリで急勾配の道を登ります。これまでの運転経験の中でも一二を争うくらい緊張しました（写真3）。対向車が来ませんようにと祈りながら運転していると、舗装された山道が見えてきました。もしかして、もっと整備された道が別にあったのでしょうか。その道沿いの駐車場に車を停めて、次に向かったのは「椎尾山薬王院」です。椎尾山薬王院は782年に開かれたといわれている天台宗の寺院です。立派な仁王門をくぐり抜けると、奥には少し崩れかかって危ない？石段があります。そして、石段を上った先にあるのは立派な本堂と三重塔です（写真4）。現在の本堂は1680年に完成したもので、本尊の薬師如来坐像をはじめとする、鎌倉時代に作成された貴重な史料を収めています。1704年に完成した三重塔なども含め、多くが茨城県指定の文化財になっていますこんなにも厳かな雰囲気古刹がこんなにも身近にあるとは思いませんでした。



写真3 本当にギリギリの運転でした



写真4 本堂と三重塔

しかし、椎尾山薬王院の文化財はこれだけではありません。文化的な建築物だけではなく、周辺の自然環境そのものも文化財となっています。境内には樹齢 300～500 年といわれているスダジイが群生しており、これが「椎尾山薬王院の樹叢」として、茨城県の天然記念物に指定されています。スダジイは主に海岸部に自生する温暖な気候を好む常緑広葉樹です。

それではなぜそんなスダジイが山の中腹に群生しているのでしょうか。現在よりも温暖だった 6 千～ 7 千年前に海水面が上昇し、霞ヶ浦とその沿岸には海が広がっていたためスダジイが存在していました。しかし、寒冷になり海水面は現在の位置まで低下してしまいました。その中で、筑波山の中腹に生じる「斜面温暖帯」といわれる気候条件のために、冬でも暖かい空気の層のためにスダジイが現存しています。ちなみに通常温暖な気候で生育されるみかん（福来みかん）が筑波山の名産品として有名なのもそのためです。このつくし湖の付近にも柑橘系と思しき果物が群生していました（写真 5）。



写真 5 柑橘系と思われる果物



写真 6 境内にいた爪とぎ中のねこです笑

今回は、筑波山の西麓、椎尾山を中心にドライブしてきました。道も基本的には広く、車通りも少ない、気分転換にはぴったりの快適な 3 時間ほどのドライブを楽しめました。それにしても筑波山付近に三重塔を擁する古刹や茨城県南西の農業の要となる湖（池）が存在するとは思いませんでした。つくば歴 6 年になりますが、まだまだマイナースポット発見の余地はありそうです。もう今春で修了となってしまうつくばを離れなければいけないのですが、新天地でもマイナースポットを掘り起こしていきたいと思います。約 2 年間、記事を書かせていただきましたが、ほぼ自己満足のマイナースポット紹介にお付き合いいただきありがとうございました。

●参考サイト

桜川市観光協会 スダジイ樹叢 <<http://www.kankou-sakuragawa.jp/page/page000023.html>>

（最終閲覧日 2023 年 2 月 2 日）

※写真は全て 2023 年 2 月筆者撮影

（生命地球科学研究群 地球科学学位プログラム 2 年 中村瑞歩）

2. 団子さし

お正月を取り戻す。



お正月から去る二ヶ月近くがたちました。皆様どのように過ごされましたか？年賀状に初詣。おせちも美味しそうですね。初日の出を見た？それもいいですね～。

私はだいぶお正月ロスを引きずっております。年末年始は謎の使命感に駆られてバイトに入りまくったり（パートさんが褒めてくれるのが嬉しくてつい）、「みんなが正月でダラダラしている（？）うちに就活を進めようククク」とエントリーシート（ES）を書くのに躍起になっていたりして、お正月らしいお正月を過ごさなかったからです。帰省もせず、つくばの人間となり、過ごしておりました。

なお、頑張って粘って書き上げた ES は見事！書類落ちしました。その後も、1 月中はなんだか気分が優れなかったり、お気に入りの物を壊したり失くしたり……。新年早々いろんなことがうまく行かず、これはお正月を正しく過ごさなかったからでは？！という思いが強まりました。休むべき時に休まなかったからとか、初詣に行かなかったからとか、「今年も頑張るぞ」って気持ちを入れるタイミングを失ったからなどなど。理由をこじつければこじつけるほど納得がいきます。あ、でも、一応新年らしいことはしました。「新しいこと 10 個チャレンジ」です。目覚まし時計を好きな音源にする、日記を始める、自販機の味噌汁を飲んでみるなど。気力を失い、8 個目で絶えました。

失ったお正月を取り返さなければ、ますますこの 1 年を棒に振るかもしれない！ということで、2 月ながらお正月らしいことをしておくことにしました。

私の故郷福島県会津には「だんご刺し」という、小正月(1月15日)に行う風習があります。これは、「みずき」という木の枝に、団子を刺し、さらに鯛や小判、恵比寿様、宝船、小槌などの装飾品を付けて家に飾るものです。五穀豊穡や無病息災を願うとか。

「これをやろう！」ということで、団子の代わりに紙粘土、「みずき」の代わりに家に溜まっていた大量の割り箸、縁起物の飾りは折り紙で。それぞれ代用しながら作ることにしました(写真1)。



写真1

ハイ、木です（写真2）。工夫したのは、より木の分かれ目に見えるよう、先端に爪楊枝を貼り付けたところです。

折り紙でもいろんなものを作ってみました（写真3）。ひょうたん、蕪、やっこさん、宝船などなど。お気に入りのは鯛です。

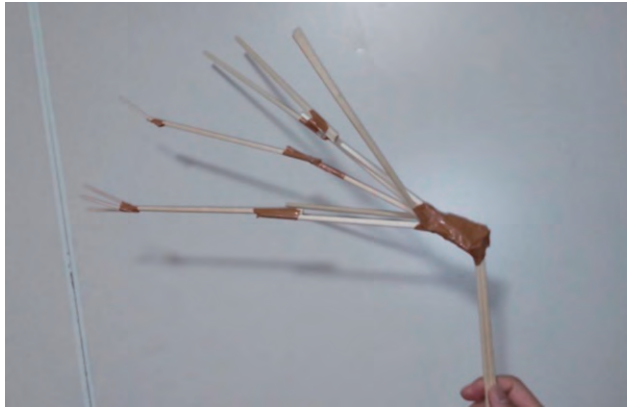


写真2



写真3

最後に、団子(粘土)を刺して完成です！（写真4）

実物と似ているか似ていないかは、「団子刺し」で検索してご確認ください。代替品で作ったにしてもはまあまあいい感じにできたはず……。異論は認めざるをえません。

小さい頃は、毎年父親が木を買ってきて、それに団子を刺していたなあと感慨深い気持ちになりました。一年の行事は大切にしなければなりませんね。来年は、お正月らしいお正月を過ごそうと心に誓いました。

ちなみに、2月3日の節分はすっかり忘れてました。実家からの仕送りに入れられていた鬼のお面と大豆が寂しく転がっている今日この頃です。



写真4

追伸) 今回の文章には「ペデジャーなる」の大切な役目、つくばらしさが欠けておりました。最後に、つくば市春日4丁目のとある一角を載せて終えたいと思います（写真5）。

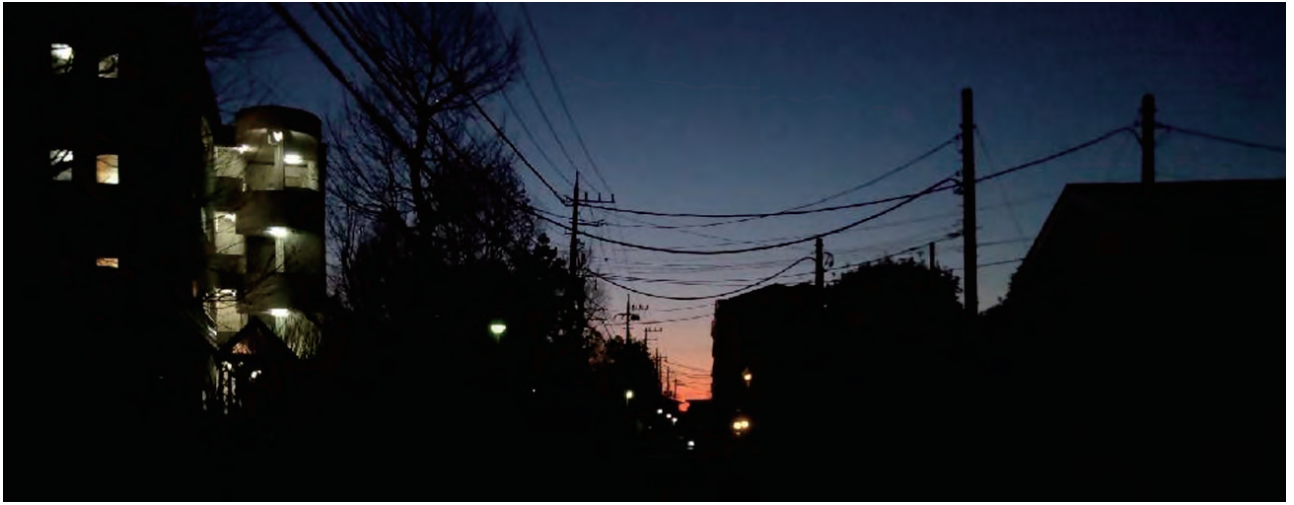


写真5 2月9日の夕方

今年も良い1年になりますように……。

(人文・文化学群 比較文化学類3年 山田優芽)

3. コロナ入学世代・3年生の就活の「今」を追う

頼れる人を見つけることが大切に



会社説明会など企業による採用・選考の広報活動が3月1日、政府のルール上「解禁」され、もうすぐで2024年春に卒業する学群3年生などを中心に就職活動が本格化することになります。ついこの間まで自分が就活で苦しんでいたかと思えば、一つ下の後輩がもう就活をしているなんて、時の速さを感じてしまいますね……。就活でよく耳にするのが「OB・OG訪問」（興味のある業界や企業で働いている先輩を訪ね、実際の仕事内容や社内の雰囲気などの情報を得て、「業界、企業研究」に役立てること…(1)）だと思いますが、卒業・修了生の皆様の中にも既に就活生に力を貸してくださっている方もいるかもしれません。私も志望業界で働く卒業生の方に連絡し、オンラインで仕事のやりがいや面接のコツなどを聞き、とても勉強になった覚えがあります。

今回は、コロナ禍の影響を特に受けた学年である学群3年生の2人に話を聞き、筑波大生の就活支援を担うヒューマンエンパワーメント推進局（BHE）のキャリア支援チームと、就活生を支援するNPO法人「エンカレッジ」の筑波大支部にコロナ禍の就活の現状について取材してみました。読者の皆様に、筑波大の就活生の「今」をお届けできればと思います。

■「ガクチカ」に苦戦、3年生で頑張って作り出した

今の3年生が入学したのは2020年春。入学当初から新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けました。筑波大も入学式が中止となり、学内への入構が禁止されました。また、授業はオンライン、課外活動も幾度となく自粛を要請されました。従来 of 学生生活が送れず、エントリーシート（ES）や面接でよく聞かれる「学生時代に力を入れたこと（ガクチカ）」に苦心する学生は少なくないのではないのでしょうか。

1年春は実家におり、秋につくばに来た比較文化学類3年のAさんは、サークルに所属しようと八つほど新入生歓迎活動（新歓）に参加しました。ですが、春からつくばにいた同期は既に仲を深めており、孤独感を覚えたそうです。Aさんは「あるサークルの新歓で『もう新入生はいらない』とも言われ、心が折れてしまった」と話しています。サークルに入ることは諦め、その後は自宅でゲームや映画鑑賞にふけていたそうです。

3年生になると周囲が就活の話をし始め、Aさんは自分にガクチカが全くないことに絶望しました。「何かしなければ」と三つの団体に所属し、中でも筑波大アスレチックデパートメント（AD）によるeスポーツチームの「OWLS」の運営に力を注いだそうです。Aさんはチームのスケジュール管理やSNS発信、自主開催のeスポーツ大会では運営のリーダーなども担いました。Aさんは「3年生が1番充実していたかも」と語っています。

また、当時を振り返って「サークルやバイトなどの先輩がおらず就活で何をすればいいのか全くわからなかった。ガクチカが必要なんて知らなかった」とAさんは話していました。

コロナ禍で縦のつながりが薄れてしまったことが、就活に影響を及ぼしていることが見て取れるように思いました。

■コロナ禍でも自分のしたい活動を見つけられた

コロナ禍で思うように活動ができなかった学生もいれば、積極的に活動できた学生もいます。

中村優希さん（社会学3年）は「大学では直接的に人を支援できるボランティア活動をしたい」と考え、1年の5月に筑波大の「CLOVER～難民と共に歩むユース団体～」に所属しました。そこで東日本入国管理センター（茨城県牛久市）に収容されている外国人との面会活動や啓発イベントに登壇するなどの活動に取り組みました。

また、中村さんは1年の冬に、「コロナ禍でもゆるくディスカッションできる場を作りたい」と考え、週に1度のオンライン交流会を高校の友人と共に主催。全国から多い時は十数人の学生が参加し、ジェンダーなどをテーマに議論しました。自身が運営から離れた現在も活動は続いているそうです。

中村さんは「1年の春は実家におり、コロナ禍で思うように活動できない焦りや期末レポートなどの忙しさにメンタルの調子を崩し、クリニックにも通った。現在も定期的に通院している。その中でも楽しいと思えることを見つけて取り組んできた。就活では積極性を評価してもらえることが多い」と語っています。

■ガクチカの有無で二極化している学年

キャリア支援チームでキャリアカウンセラーを担う瀧下芳彦さんは「コロナ禍で交流が制限されたことでモチベーションを失い、課外活動などに前向きになれなかったと話す3年生は多い」とする一方で、「模索しながら精力的に活動できた学生もあり、就活を進められている人とそれが難しかった人とで差が大きく広がっている世代だ」と語っています。

エンカレッジの筑波大支部副代表のムミト・イクバルさん（社会学4年）は課外活動などに取り組んでいる就活生についても次のように指摘しています。「コロナ禍で活動の規模が縮小されたことで自信を失い、側から見れば立派なガクチカにも関わらず本人が気づけていないことが多い」

■頼れる人を見つけて

イクバルさんは就活において大切なことについて「情報量が武器になる」と話しています。

SNSや就活用のLINEオープンチャット（LINE上で「友だち」になっていなくてもトークをしたり、情報をキャッチできたりする機能）などには真偽が定かではない匿名の情報があふれています。それらを鵜呑みにせず、信頼できる就活支援を頼り、志望する業界で働く先輩たちにも話を聞く必要がありそうです。

イクバルさんは就活生に対するアドバイスとして「色々な人を頼って、巻き込みながら就活をしてほしい。1人で抱え込むと視野が狭まり、気持ちも塞ぎ込んでしまいがち。頼れる人を見つけると、客観的な意見や新しい情報をもらうことができる。エンカレッジでは就活を終えた学生がメンターとして1対1で相談に乗る。自己分析の手伝いやESの添削なども担っているので気軽に頼ってほしい」と語っています。

キャリア支援チームでは予約制の個別キャリア相談はもちろん、3月1～10日にかけて合同企業説明会、3月20日にはES・面接・グループディスカッション（GD）の少人数講座を行うなどさまざまなオンラインのイベントを実施しています。また、在学生を対象に、OB・OG訪問先データベース（OB・OG名簿）を「筑波大学就職情報提供システム」上で公開しているそうです。サークルや学類の縦のつながりが希薄化しがちな今、まずは頼れる先輩を自分から見つけることが内定への近道かもしれません。



個別キャリア相談に対応する職員

読んでくださっている先輩方、もし就活生の後輩からOB・OG訪問の依頼の連絡があった時には温かく迎え入れてくださると大変ありがたいです……！後輩のためにもよろしくお願いします！

【引用文献】

(1) マイナビ 2023「OB・OG 訪問って何？」(最終閲覧日 2月 20日)

<https://job.mynavi.jp/conts/2023/obog/01.index.html>

(人文・文化学群 比較文化学類 4年 北川瑠菜)

4. 筑波落研の会長、変わります。

代替わり寄席開催！



大分遅いですが、みなさま明けましておめでとうございます。お正月はどう過ごされましたか？私は静岡の実家で年を越しました。家族や旧友と再会し、おせちやお雑煮を食べながら箱根駅伝を見る……。そんなのんびりした帰省でした（レポート課題さえなければね…）。

まあそれはそうとして、今年の駅伝は我らが筑波大、皆川和範選手が往路9区を走っていましたね。フューチャーブルーのユニフォームに身を包み、胸元の「五三の桐」が輝いていました。去年の福谷颯太選手に続き関東学生連合チームとしての参加は2年連続。「来年は必ずチームで出場したい（筑波大学新聞第375号より）」という強い思いに胸を打たれました。応援してます！！頑張ってください！！

ところで、駅伝で走っている選手たちって、たくましくて本当にかっこいいですよね。甲子園で活躍する球児たちもそうですが、「かっこいいお兄さん」って感じです。今年もその“お兄さん”たちをお茶の間から応援していたわけですが、「〇〇色のたすき、箱根大の駅伝太郎は大学2年生。初の山登り…」なんてアナウンスを聞くと「えっ！年下っ?!？」っと大変驚くわけです。考えてみると、ランナーたちは同世代の大学生、ましてや球児たちは年下の高校生ですから、年齢的には同い年、あるいは自分がお兄さんになってしまったわけです。もちろん、尊敬の意味も込めて彼らは「永遠のお兄さん」ですが、「自分も年を取ったなあ〜」としみじみ感じる今日この頃です。余談ですが、最近ビールも少しだけ美味しいと思うようになりました。それを院生の先輩に話すと「それは青春が終わったサインだよ」と言われ「トホホホ」と、ちびまる子ちゃんみたいな言葉が口から漏れ出しました。

もう少し雑談にお付き合いください。多くの方が共感してくださると思うのですが、箱根駅伝を見ていると、一日があっという間に過ぎ去ってしまいますよね。課題レポートをやらなきゃと言いつつ、気が付くとテレビにくぎ付けになってしまいます。「乾杯をもっとおいしく。SAPPORO！」という一言から始まる、サッポロビールの「大人エレベーター」のCMが流れるたび、もう見るのやめにしてやることやろう！と何度決意したことか……。サザエさんのエンディングを見ていると、「日曜日もおしまい」という何とも言えない悲しみがあるのですが、箱根駅伝の場合も、1位チームがゴールテープを切ると「お正月もおしまい」という悲しみが増してきます。

大分前置きが長くなりましたが、言いたいことはいたってシンプルです。「1月ってとっても短い」ですね。お正月が昨日のように感じます。もう今年の12分の1が終わってしまったのです（この号の発行の頃には2月も終わってますね…）。時の流れってあっという間ですね。この話をバイト先で一緒のマダムに話したところ「歳取るともおっと早いぞ」とゲラゲラ笑われました。

そんなあっという間の1月だったわけですが、お正月以外にもイベントはたくさんありました。その一つが今回の本題でもある、「代替わり寄席」（1月22日開催）です。実は私、筑波大学落語研

研究会（落研）の第46代会長でございまして、昨年12月に引退（代替わり）いたしました。次代会長への引き継ぎも兼ねて例年行っているのが、上記の寄席です。下の写真が今回のポスターです（写真1）。詳しくは後述しますが、私が新聞に由来した高座名なので、壁新聞みたいなイメージで後輩が作ってくれました。



（写真1）とっても素敵なポスターだと思いませんか？私のお気に入りです。

私が今回披露したのは、「能狂言」という演目です。ストーリーはざっと以下のような感じです。ネタバレなので「知りたくないよ」という方は次の段落を読み飛ばしてくださいね。

時代は江戸時代までさかのぼります。舞台は、田舎の小さな国。参勤交代で江戸に出ていた殿様が、1年のお国入りということで、ご自身の領地にお帰りになる。そこで殿様は家臣たちに「端午の節句に能狂言を見たい」というわけです。家臣たちは能狂言を知らないくせに「承知仕りました」と二つ返事してしまったものだから、さあ大変。誰も知らないってことで、切腹してお詫びする案もありましたが、「能狂言を知っていたら褒美を出す」という内容の高札（今でいう屋外掲示板みたいなもの）を国の至るところに立てるわけです。ですが、大変へんぴな国ですので、誰一人知りません。そんな中、旅をしていた噺家（落語家）二人がこの国にやってきます。江戸で商売がうまくいかず、再起を目指して旅をしていたわけです。ひよんなことから、殿様の前で能狂言をやることになった2人ですが、実は彼らも能狂言をあまりよくわかつちやいないんです。適当に能狂言を演じ、お礼（こづかい）をもらったらさっさとずらかろうと考えた二人は、でたらめな能狂言をするのですが、これがまあ面白いったらありゃしない。そんな作品でございまして。興味を持った方は、ぜひYouTubeなどで探してみてください。私は三遊亭圓生師匠ののを見ました。おすすめです。

授業の準備や就活などでなかなか練習する時間はありませんでしたが、会長としての最後の寄席ですので、気合を入れて練習しました。本当に忙しいときは2日前くらいから覚え始めるのですが、今回はなんと3日前から覚え始めました。自分でもよく頑張ったと思います（本来ならもっと時間

をかけてじっくりと稽古する必要があります。自分はとても悪い例です。落語の神様ごめんなさい)。上演時間はだいたい 30 分弱。登場人物は、殿様や家臣、噺家二人など、多岐に渡ります。練習していて特に苦労したのは家臣たちのセリフです。話の冒頭、江戸から帰って来た殿様に、家臣の一人がこう言います。

「殿には、道中つつがなくお帰国を遊ばされまして、麗しきご尊顔を拝し、臣等一同、恐悦至極に存じ奉ります」

この言葉をすらすら言えるようになるまでが、まあ、大変でした。「つつがなく」っていう言葉がどうしても出てこないんですよ (笑)。これを日常的に話していた武士の方々、すごいですよね。仮に突然こんなこと言われても「おっ、おう！」ってなっちゃいます。また、最後に噺家たちがでたらめな能狂言をするわけですが、能狂言っぽくしなくてははいけません。通常の落語では、オチがあって礼をして出囃子とともに高座から降りるわけですが、この演目では礼をせずに「やるまいぞやるまいぞ」と言いながら高座から降りていきます。なんともイレギュラーなわけですが (これがこの噺の面白さでもあります)。とにかく、ひたすら声に出して、何度も何度も最初から最後まで通して練習をしました。アパートの隣の部屋の方、うるさくて本当にごめんなさい (隣の方も大音量でよく歌ってるので、おあいこですかね笑)。

そして迎えた当日。会場は体芸エリアの 5 C 棟だったのですが、なんと偶然にも私が初めてお客さんに落語を披露した場所でした。「あれから約 2 年たったんだな」と感慨深い気持ちになりました。思えば、2 年、いろいろなことがありました。私が落研に入ったのは 1 年生の 10 月。入学当初から落研に入会希望でしたが、コロナのせいで入学式や新歓祭がなく、声をかける機会すら逃していました。夏休みも終わり、「大学生活を無駄にしたくない」という思いで、勇気を出して入会の連絡をしたのが始まりです。太古の昔のように感じます。蓋を開けてみたら、1 年生会員は私だけという、入って早々存続の危機だったのですが、優しく面白い先輩方がサポート・稽古してくださり、2021 年 3 月が初高座だったわけです。大学新聞の活動していたこともあり、高座名として「瓦家面麗良 (かわらやつらいよ)」と名付けていただきました (かわらや=新聞、つらいよ=そのままの意味)。

その後の新歓で 6 人の新入会員が入ってくれて、存続の危機は免れました。会長になったのは、2 年生の 12 月。前述の通り、私が入会した時期、つまり 45 期の会員が私だけでしたので、自動的に会長に昇格しました (笑)。この時期、大学新聞の副編集長にもなったので、一気に責任がのしかかってきた感じです。新聞の活動が忙しいときは、大学新聞の編集室→落研のミーティング→編集室というような順番で行ったり来たりしました。本来なら落語“研究”会として落語をもっと練習したり、演目や落語家さんについて話し合ったりしたかった (すべきだった) のですが、ミーティング後すぐに編集室だったので、それもかないませんでした。それが会長時代の一番の反省点です。「自分は落研を存続させるためのつなぎ役であり、それが最大の任務」と言い聞かせてました。また、満足に会長職をできない分、寄席の準備や手伝い、稽古はできる限り率先して行うようにしました。相談に乗ってくれた先輩方、快く仕事を引き受けてくれた後輩たちのおかげで最後まで会長職を続けられましたし、本当に感謝してもしきれません。“瓦家”の活動が大変で“つらい”ときも多々

ありましたが、落研での「笑い」はそんな“つらさ”を吹き飛ばしてくれました（もちろん、新聞がつらいだけの活動ではないですよ。名刺一枚で誰にでも取材ができ、とっても貴重な体験を与えてくれるし学びもたくさんありますが、アポ取り→取材→原稿執筆→赤入れ→紙面構成などの編集作業→原稿の事実確認→発行までをやり通すためにはなかなかの体力勝負なんですよ笑）。

そんなことをいろいろ考えながら高座に上がりました。なぜか今回はあまり緊張せずにできた気がします。お客さんはほぼ内輪ですが、要所要所で笑ってくれて良かったです（写真2）。「やるまいぞ」と言いながら退場したとき「これで終わったんだなあ」と思いました。これからは、一会員として落研を支えていきたいと思っています。面麗良の落語を見てみたい、あるいは筑波落研に寄席を依頼したいという方はぜひとも、落語研究会にご連絡ください。



（写真2）大学新聞の後輩も来てくれました～

代替わりを持ちまして、筑波大学落語研究会は新しくなりました。これからも筑波落研への厳しいご指導と温かいご声援のほど、隅から隅までずずい————と御願ひ申し奉ります。

参考

筑波大学新聞第 375 号（2023 年 2 月 13 日発行）

<https://www.tsukuba.ac.jp/about/public-newspaper/pdf/375.pdf>

（人文・文化学群比較文化学類 3 年 天野隼太）

5. 独断と偏見で選ぶ中央図書館の好きな場所ランキング

5年間お世話になった学舎に愛を込めて♡



早いもので、もうすぐ卒業の時期です。1年休学し社会学類5年生になった私も、この3月でつくばの地とお別れします。さみしい！そこで今回は、5年間、そして特にこの11月～1月の卒業期間中はほぼ毎日利用していた中央図書館のおススメスポットをご紹介しますと思います。

私が所属する社会学類の社会学専攻は、1月25日が卒業論文の最終締め切り日でした。秋まではのんびり進めていた卒論も、冬に入り締め切りへのカウントダウンが始まると急に焦りが募るものです。11月～1月の3ヶ月間は、毎日「やばいやばい」と言いながら週6ペースで通い詰めていました。2020年の3月以降、コロナの影響で今まで自由に使えていたソファやPC、デスクが軒並み閉鎖され図書館は閑散としていました。今はほとんどのスペースが元に戻っており、ヘビーユーザーとしては大変ありがたかったです（ただ、感染対策で仕方ない部分があったとはいえ、正直もっと早く元に戻してもらいたかったですね）。

それでは本題に移ります。まず、【友達と作業する場所部門】第1位は…4階ラウンジです！なぜ4階かと言うと、社会学の本が4階の本棚にあるからです。真面目な社会学類生は4階に生息するものですよ？

友達と作業する際は、どうしても時々雑談や議論を挟みたいですよ。そんなあなたにはラウンジが最適！

2階のチャットフレームも会話ができますが、定員が2人までに限られています。セミナー室は、会話ができ3人以上での利用も可能ですが、予約が少し面倒なのと、一人1時間半という短時間しか予約できないので長時間の作業は渋いです。

4階ラウンジの難点を挙げるとすれば、コンセントが3ヶ所しかないこと。それ以外は、空調も効いていて温かく、ホワイトボードもあり、机や椅子を自由に動かせるので便利です。5階だとWi-Fiの効きが弱い時があり、3階よりは4階の方が景色も良いので、ラウンジに行くなら4階が丁度いいのです。



ちなみに【友達と作業する場所部門】の第2位は、2階のチャットフレームです。

ここはいつも混んでいて、空いているとラッキーな気分になれます。特に、両方のソファが背もたれ付き＆足元にコンセントがあるこの1角が1番気に入っていました。机が広いので、思いっきり書類を広げられるのも魅力ですね。1、2年生の時は人数制限がなかったので、4～5人でみちみちに座ってレポートを書いた思い出があります。



そういえば、チャットフレームの横の AV ブース
周辺が少しリニューアルされていました。紫のパー
テーションで区切られた AV ブースは、前よりも利
用しやすそうな雰囲気になっていい感じです。

その手前の一人用の背の高い机・椅子は、まるで
おしゃれカフェのよう…。以前ここで MacBook を
カタカタしている眼鏡をかけたおしゃれな方がい
て、その空間だけ筑波大じゃないみたいでした。



2階のエリアをご紹介してきたので、おまけと
して最近解放されたリフレッシュゾーンの写真
を掲載します。コロナ前よりも椅子と椅子の感
覚が広がったのと、おにぎりやパンなどの食事
はNGになりました。奥の机は、ラウンジや
チャットフレームが混んでいる時に、複数人で
作業できる穴場スポットです。ただ、換気がしっ
かり行われているためやや寒い…。

続いては、【一人で作業する場所部門】。第 1
位は…図書館 4 階の奥の方！

的確に場所を説明するのが難しいのですが、階
段を上がって右に曲がり、石の広場に面した側の
自習スペースをずーっと歩いて、本棚の数字で言
うと 366~367 付近の机です。わかりにくいです
ね…。

私が専攻しているジェンダー社会論の本棚がす
ぐ隣にあることと、石の広場と第 2、3 エリアを一
望できるロケーションが魅力です。大体の机には
コンセントが備え付けてあるので電源には困りま
せん。

このエリアは、静かにひたすら読書する人、す
ごい勢いでタイピングする人、貸し出し不可の分
厚い資料を山積みにして作業する人など、一人で
真剣に学業と向き合う学生が多い印象があります。
自分も頑張らねば、と気を引き締められるのでお
すすめです。



この付近には、謎の螺旋階段もあります。1年生の頃は、本棚の密集地に突然現れる水色の螺旋階段にワクワクしたものです。登ると、普通に5階に出ます。勉強に疲れた時、音楽を聴きながら無意味に螺旋階段を上り下りするのが好きでした。変な奴…。でも、同じことしてる人きっといますよね？



螺旋階段の上からの景色。
本棚を上から眺めるのも楽しいです。



螺旋階段を上がるとぼつんとソファが置いてあります。なんとなく座ってみました。

お次は、【お散歩部門】。第1位は、圧倒的に図書館1階の書庫です。勉強に疲れた時、一人でふらりと歩きたくなることありますよね。ここは、古書の迷路を探索するような気分が味わえる最強の散歩ルートだと断言します。



お次は、【お散歩部門】。第1位は、圧倒的に図書館1階の書庫です。勉強に疲れた時、一人でふらりと歩きたくなることありますよね。ここは、古書の迷路を探索するような気分が味わえる最強の散歩ルートだと断言します。

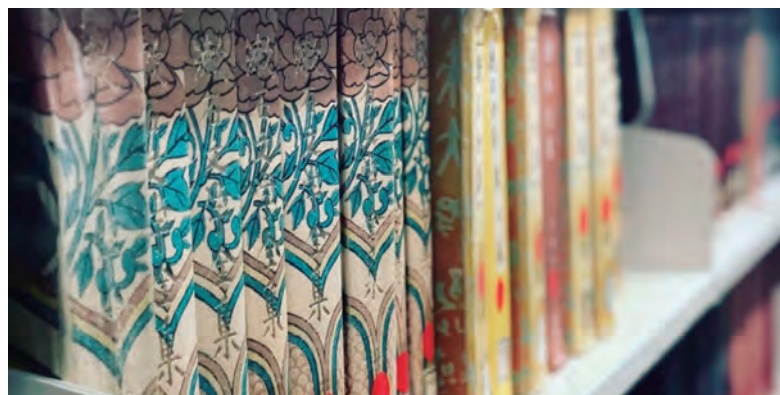


ここには、東京高等師範学校、東京教育大、東京文理科大時代の貴重な古書や全国の大学の研究紀要などがみっちり詰まっています。古い書籍は面白い装丁のものも多く、布地に文字を刺繍した本や、金の箔押しの本、伝統的な和柄をあしらった本など、背表紙を眺めて歩くだけで時間が溶けます。そして、なんと言っても古本の香りがたまりません。日が差し込まない地下のひんやりとした空気に、色褪せた古紙の埃っぽさが混ざった、なんとも言えないノスタルジックな香りがします。

内部は2階建てになっています。上から見下ろすと、まるで本の海。「巨人の肩の上に立つ」という言葉がありますが、まさに先人の学術研究と知の蓄積の上に、自分の学びがあるのだと体感できます。100年以上前から、学生や研究者たちがこれらの書籍で学んできたことを想像すると、大学や図書館が守られ、地域に存在し続けることの重要性を改めて実感します。選択と集中、稼げる大学！などと銘打って、大切なものを削り取らない社会にしたいものです。



2年前、友人と図書館1階を散歩した時の写真です。MVや映画の撮影ができるんじゃないかと思うくらい、わくわくする空間です。わかりやすく言うと「エモい」雰囲気だと思えますが、決して軽薄なニュアンスのエモさではなく…実際に行っていたら、この絶妙な感覚が伝わるかと思えます



1年生の時に撮影した、夏目漱石文学全集の棚です。装丁に見惚れます

1階は、新聞閲覧ゾーンや自習スペースもあります。ここは特に夏が最高です。ひんやりしていて静かで、それでいて人通りも適度にあるので作業に集中しやすいです。



以上、中央図書館の好きな場所ランキングでした。どのエリアにも思い出が詰まっていて、写真を撮りながらしみじみしてしまいました。中央図書館が利用しやすい場所であったおかげで、無事に卒業論文も提出できたので、附属図書館の運営の方々には感謝の気持ちをお伝えしたいです。そして、毎回閉館ギリギリまで居座ってすみませんでした。

【おまけ】

中央図書館前のスターバックスも居心地が良かったです。電源がなく、そもそもカフェなので長居しすぎるのは憚られますが、ガラス張りで天井も高いため開放感があり、卒論で煮詰まって気分転換したい時にはとても助けられました。

(社会・国際学群 社会学類4年 後藤佳怜)



6. 関鉄バスと筑波大生

「宅通」学生の叙景（2）



ペデジャーなる 2021 年秋号に『TX と筑波大生 「宅通」学生の叙景』を掲載させていただいてから一年と少しが経ちました。当然、私も学年が一つ上がり、晴れて昨年 12 月に修士論文を提出することができましたが、依然として「宅通」生活は続いており、これで私の「宅通」歴も 6 年目が終わろうとしております。前回は TX（つくばエクスプレス）と「宅通」学生について書かせていただいたわけですが、もちろん、「宅通」学生の生活を支えてくれているのは、それだけではありません。今回は私の「宅通」生活を支えてくれている関鉄バス（関東鉄道バス）と「宅通」学生の生活についてご紹介させていただきたいと思います。

つくば駅に降り立って、地下の改札から地上に上がってきた「宅通」学生の行き先は自転車置き場か、バス停「つくばセンター」の 6 番乗り場の 2 つです。つくば駅から大学までの移動手段は自転車とバスの二つの手段があり、「宅通」学生はその二つを選択するわけです。しかし、バスを使って大学に行くといっても、大学の近くに住んでいる学生同様、広い学内を移動するために自転車は必須。私も自転車を所有しており、それは専ら学内を移動するためのものとして使っていて、大学から駅までは基本的にバスを使っています。そういう人は多いのではないのでしょうか。

バスを使って大学へ向かう「宅通」学生は、つくば駅の A3 出口から地上に出て、一直線にバス停「つくばセンター」の 6 番乗り場へと向かいます。このとき、少し急がないとバスの座席に座れないこともあるので、全員足早になっている気がします。

バス停では少しのあいだ、並んでバスの到着を待つ必要があります。朝の混雑している時間などは、長蛇の列になっていることもあります。その列には、さまざまな人がいます。友人にそこで会うこともあれば、授業を受けたことのある先生が並んでいるのを見ることもあります。

現在の「つくばセンター」のダイヤは基本的に筑波大学循環右回りと左回りが 10 分おきに交互に来ます。それぞれの目的地に応じて「宅通」学生はバスに乗り込みます。TX の快速電車は昼の通勤通学の時間以外だと、快速電車は毎時 15 分、45 分につくば駅に到着するため、私は 20 分発、50 分発のバスによく乗っています。

その日の予定が終わり、帰ろうとするときも、バスに乗ってつくば駅に向かいます。一時間に 3 本になってしまったバスを待ち、車内でその日にあったことを振り返りながら流れる景色を眺めるのが私の好きな時間です。そしてつくばセンターに着いてつくば駅の A4 出口から改札に向かいます。

筑波大学では、大多数の学生が大学の近くに住んでいて、その中で強固なコミュニティを築いているのに、「宅通」学生は少しの疎外感を感じる（少なくとも私はそうです）わけですが、バスが大学と自分とを結びつけてくれているような気がするのです。「宅通」学生にとっては、このバスに乗って駅と大学を往復するという時間は、当たり前のものでありながら、筑波大生である自分を構成する一つの重要なファクターなのです。

『平成 29 年度筑波大学学生生活実態調査（学群）報告書』によると、2017 年時点で、約 2 割の学生が日常的に関鉄バスを利用しているそうです。なお、通学的手段の中では、雨天時以外で 12.3%、雨天時で 23.8% の割合を占めており、関鉄バスは「宅通」学生だけではなく、「筑波大生」とかかわりが深いとも言えます。

しかし、2017 年時点でも、2012 年時点の調査から関鉄バスの利用率は下がっているようで、2023 年となった今、コロナ禍とそれによるダイヤ改正などを経て、バスの利用者数がどう推移したのか、ということは、非常に気になるところです。「宅通」の学生にとっての日常が今後、どのように変化し、維持されていくのか、「宅通」学生の一人として注目していきたいと考えているところです。（関鉄バスとキャンパス交通システムに関しては、は 2022 年冬号、2022 年春号の記事もご覧ください）。

（人文社会科学研究群 人文学学位プログラム 2 年 加藤総一郎）

7. 6年間で振り返る

最後に行きたいつくばのお店



皆様こんばんは。まだまだ寒さも厳しい季節ですがいかがお過ごしでしょうか。私事ですが、今年の3月で6年間のつくば生活に終止符を打つこととなりました。筑波大学 OBOG の皆様は“最後のつくば飯”にどのお店を選びましたか。行きつけのお店、バイト先、何かしらの思い出のある場所、美味しかったお料理がある場所等々、選ぶにも様々な基準がありますよね。そこで今回は私の6年間で振り返り、私が独断と偏見で厳選する、最後にもう一度行きたいお店&行ってみたいお店（居酒屋だけになってしまいましたが）を紹介していきたいと思います。

・灯禾軒

サークルやゼミの飲み会でよく利用していた方も多いのではないのでしょうか。実は私はずっと行ってみたいと思いつつも行く機会がなく、6年間行けずにいました。その為、つくばを去る前に、筑波大生御用達の有名な居酒屋に一度は行ってみたいなと思い、最後に行きたいお店としてチョイスさせていただきました。

というわけで、先日早速行ってきました。噂には聞いていたのですが、お酒もお料理もリーズナブルで美味しかったです。お酒のお写真は撮り忘れてしまったのですが、生ビール、ミックスフルーツの果実酒、そして浦霞（日本酒です）を頂きました。

お料理も沢山頂きました。まずはぶりの刺身と灯禾軒名物の揚げ出し豆腐です。



ぶりの刺身は分厚く切られており、非常に食べ応えがあるものでした。脂ものっていてとても美味しかったです。餡がとろっと美味しくて、温かくて寒い日にぴったりのお味でした。見渡すとどの卓のお客様も揚げ出し豆腐を頼んでいました。定番人気を領けます。

続いて、生牡蠣です。



なんと！このボリュームで1500円以下だったような気がします（うろ覚え）。流石にリーズナブルすぎます。肉厚で新鮮で美味しかったです。

灯禾軒は海鮮系のメニューの豊富さと美味しさで有名らしいですね。ということで海鮮系メニューシリーズです。



焼きホッケとすじこのおにぎりです。焼きホッケは脂がのっていて美味しくて。焼酎にとってもよく合いました。すじこのおにぎりも、中がすじこたっぷりでした。美味しかったです。

揚げ物もいくつか頂きました。定番舞茸の天ぷらと、珍しいなめこの天ぷらを頼んでみました。



天つゆも天ぷらそれぞれに合わせて用意されており、こだわりを感じました。どのお酒もお料理も美味しく頂きました。ごちそうさまでした。

・小寅

先輩に連れていってもらったり、サークルの飲み会で何度か利用したりと、かなり思い出深い居酒屋さんだったのでチョイスさせて頂きました。今は名前が変わって“囲炉裏焼 杉”さんになっているそうです。時代が変わってしまった寂しさを感じますね。名前は変わってもメニューはさほど変わっていないようで。卒業までに昔を懐かしみながら再訪してみようと思います。さて、小寅といえば、飲み放題でもお酒がしっかり濃かったことがとても印象に残っています。その為一緒に飲み会をした仲間が皆揃って悪酔いしてしまったのも、今となっては良い思い出です。お料理はホルモン中心の焼肉が有名なお店で、炭火で焼くのが特徴的でした。



前述の小寅さんのように、ここ何年かでお店の名前が変わったり、閉店や移転をしてしまったお店が多数あります。コロナの影響もあり難しいとは思いますが、6年間つくばに住み続けた身としては非常に寂しいものを感じます。また、閉店するお店もあれば新しく開店するお店もあるということ。これからの筑波大学生の思い出に刻まれるものとなるでしょう。一時は飲食店に行くことや飲み会の開催も厳しくなっていました。今は随分と緩和されてきているので、勉強やバイトだけでない楽しみを学生達が満喫できればいいなと切に願うところです。末筆ながら、この記事を読んでいる皆様に大学時代の飲食店の思い出を想起していただければ幸いです。皆様もつくばまで足をのぼして、お店がなくならないうちに（笑）、思い出の飲食店に再訪してみるのはいかがでしょうか。

(人文社会科学研究群人文学学位プログラム博士前期課程2年 磯良春佳)



編集後記

最後までお読みくださりありがとうございます！編集長の北川です。

今号は、筑波山西麓をドライブしたもの、故郷・福島県会津の行事「団子さし」に挑戦したもの、コロナ入学世代の就活の「今」を取材したもの、自身が所属する筑波落研の代替わりにまつわる話、中央図書館の好きな場所ランキング、「宅通」学生から見る関鉄バスに関する叙景、最後に行きたいつくばのお店をまとめたもの……と個性豊かな記事がそろいました。

私は今年度卒業なので、つくば生活も最後かと思うと寂しさがあります。新生活を始めてホームシックならぬつくばシックになった時は次のメンバーが書いてくれるペデジャーなるを読んで、「つくば成分」を摂取したいと思います。

現メンバーでお送りするのは今号をもって最後ですが、来年度も変わらず筑波大やつくばの魅力や懐かしさをお届けしていきます。

(人文・文化学群 比較文化学類4年 北川瑠菜)



Twitter、Facebook で筑波大学の情報を発信しています

事業開発推進室では、大学や在学生の「今」を伝えるため卒業生に向けて Twitter、Facebook でも情報を発信しています。

学生の様子、学内の景色や、大学の取り組みなどはもちろん、在学生・卒業生が交流できるような企画を増やしていきます。

卒業生が楽しんでいただけるお知らせやその他イベントについても告知していきますので、ぜひフォローをお願いいたします。発信してほしい情報がありましたらお知らせください。



- 🌀 筑波大学大学基金 <https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/>
- 🌀 筑波大学アプリ「TSUKUBA FUTURESHIP」<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/futureship.app/>
- 🌀 日経 VR「オープンキャンパス360～筑波大学～」
https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/NIKKEI_VR/



Tsukuba Futureship (筑波大学) Facebook



TSUKUBA FUTURESHIP (筑波大学公式) Twitter





お好きなソーシャルメディアで
お楽しみください！

大学公式 SNS

やっています @ 広報局

筑波大学広報局では、同窓生・筑波大学に親しみを持ってくださっている方に向けて「創基 151 年筑波大学開学 50 周年記念」特別企画コンテンツを SNS で発信しています。

その内容をちょっとご紹介

「つくばノスタルジア」

学内の今昔を写真で振り返ります。
キャンパス編、学食編ともに懐かしの
「あの場所」「あの味」が蘇る！？

2023 年 1 月下旬現在までのアップロード

- ◆キャンパス編◆
 - ①ループ道路
 - ②体芸棟
 - ③本部棟
- ◆学食編◆
 - ①かつ弁
 - ②鶏めし



Twitter



Facebook

「筑波大学走る動画」

まるで自分が大学構内を走っているかのような
“没入感”が楽しめる 5 分動画です。
懐かしい中にも新しい発見が…！？

2023 年 1 月下旬現在までのアップロード

- ①追越・平砂宿舍編
- ②体育・芸術 / 学生会館編
- ③第一エリア～第二・三エリア編
- ④虹の広場～一の矢宿舍エリア編
- ⑤あけぼのすぎ通り～本部棟編



カメラ持って走っています



YouTube

コンテンツは、まだまだ増える予定です。みなさまのご視聴・フォローをお待ちしております！

QRコードから
アクセスは
こちらの



創基 151 年
筑波大学 50 周年記念
50TH ANNIVERSARY OF
UNIVERSITY OF TSUKUBA

今だけのコラボ商品が3月中旬発売予定!!

変更になる可能性があります



この商品の売上の一部は
筑波大学の学生支援のため
に役立てられます。



筑波大学の農場で採れたお米で作りました！
軽い食べこたえと深い味わいのおせんべいです。

FUTURE SENBEI 一筋

(しょうゆ・にんしくしょうゆ・さとう・ソース・カレー各1枚)

数量限定販売！

5枚入り ¥700 (税込)

※商品がなくなり次第、販売終了です

ここで買えます！

カスミ筑波大学店 <https://www.kasumi.co.jp/tenpotop/ibaraki-south/tsukuba/292/>

プルシェつくばキュート店 <https://www.kasumi.co.jp/tenpotop/ibaraki-south/tsukuba/285/>

筑波大学公式グッズ・オンラインショップ <https://tsukuba-shop.com/>

椎名米菓 <https://www.1000bei.com/>

- 編集・発行：「ペデジャーなる」編集ワーキンググループ
- デザイン・配信作業：国立大学法人筑波大学事業開発推進室
- ご意見・問い合わせ先：国立大学法人筑波大学事業開発推進室
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1-1
TEL：029-853-2030 FAX：029-853-6576



ペデジャーなる

メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。 ©2022 University of Tsukuba.

「ペデジャーなる」のバックナンバーはこちらから

筑波大学メールマガジン『ペデジャーなる』(tsukuba.ac.jp)

配信先・ご住所などの変更は以下のフォームよりご登録をお願いいたします

登録フォーム <https://forms.office.com/r/0ndsbfM04q>